



## 外科手術について



呉羽総合病院院長・外科

緑川 靖彦

### 手術は郭清と吻合である

がんによる死亡が、日本人の死因第1位となって久しいですが、超高齢社会とともにがんは増え続けています。現在では、2人に1人（男性は3人に2人）ががん罹患します。こうなると、珍しくない疾患、ありふれた病気ということができでしょう。

がん検診などによって、早期に発見されるがんが増えてきているのは事実ですが、依然として進行がんも多く発見されます。そのようながんはやはり難治性で、生命を脅かします。がんが恐れられている

のは、進行がんが存在する、転移を起こすからに他なりません。日頃から自分の体に関心を持って、検診などを受診して、がんが見つかったとしても早期のうちに治療できれば、何ら恐れる必要はありません。

さて、私の外科手術についての考え方を述べさせていただきます。私は昭和60年に医学部を卒業しましたので、外科医として30年以上、外科手術に従事してきました。最近のがんの増加に伴い、がんに対する手術が中心ですが、胆石症、虫垂炎、腹膜炎、ヘルニアといった手術も数多く手がけてきました。苦い思い出、つらかった思い出、数多くよみがえって参ります。どちらかという良くない思い出の方が鮮明に思い出されます。この逆境こそが外科医を進歩させる原動力であるといえるかも知れません。この間外科手術に関しては、2つの大きな変遷がありました。

まずは、胃腸管を行う吻合用の機会の開発、普及であり、確実、安全な吻合が修練期間に関係なく達成されるようになりました。現在、すべての外科手術施設で用いられているといっても過言ではありません。

もう一つは、低侵襲性を目指しての鏡視下手術の開発、普及です。確かに傷は小さい、入院日数は短くて済む、患者の回復は早いと言えます。今後、安全、確実である限り、適応となる症例にはどんどん普及

すべきと考えています。

私には、外科医として手術に対しての矜持があります。それは、がん手術に対して“郭清と吻合にこだわる”ということがあります。郭清というのは転移したリンパ節をしっかり取ってくることです。以前は、病巣をリンパ節を含めて根こそぎ取るために、12時間以上をかけた手術も行いました。なぜなら、出血や結果にこだわらなければ、腫瘍を取るだけなら、小学生や研修医にもできると思っているからです。この郭清と吻合の善し悪しは患者さんの人生、生活の質（QOL）に直結します。私は外科医として、手術に際して、このことにはこだわっております。

一方、近年、外科手術に対して膨大な科学的根拠（エビデンス）が蓄積されました。何でもむやみにリンパ節郭清をすれば良い、拡大手術をすれば良い、というものではなく、患者さんの状態に応じた、科学的根拠に基づいて適切、確実な手術が重要であるといわれてきています。そして、そのことが、患者さんの人生、生活の質のアップに繋がります。私は、郭清と吻合にこだわりながらも、今後とも、患者さん、家族を第一に考えて手術に従事して参りたいと思っております。

## 手術を受ける患者様へ



中央材料室師長 町田 則子

### 患者様が安心して手術を臨めるように

病気は患者・家族の皆様の日常生活を大きく変えるばかりではなく、未知で様々な不安と恐怖を与えます。特に「手術」と聞くだけで漠然とした不安が大きくなるのではないのでしょうか。そのような漠然とした不安を理解し、患者様が安心して手術に臨めるよう、当院手術室では手術前に麻酔科医・手術担当看護師が病室を訪問し、手術の流れや手術室での処置・麻酔について説明し疑問にお答えしています。また、説明をすることで患者様からのご理解とご協力を得られることで、より安全に手術を受けていただけるよう取り組んでいます。

近年、手術は多種多様な手術に対応す

べく専門的な知識や技術の向上に努め、円滑で安全に手術が提供できるよう、主治医・麻酔科医・手術室看護師はもちろんのこと放射線技師・臨床工学技士、その他のコメディカルスタッフが手術医療を提供しております。

手術当日は、少しでも患者様の緊張がほぐれるよう歩行での入室を取り入れていきます。マスクの下には笑顔いっぱいの明るく元気な手術担当看護師が手術室入り口でお待ちしていますので、患者様は安心して手術室にお越し下さい。

## 腹腔鏡手術について



外科部長 保 清和

### 腹腔鏡手術のメリット

腹腔鏡手術の歴史は浅く、1985年、ドイツで腹腔鏡による胆嚢摘出手術が最初に行われたとされています。しかし、腹腔鏡手術の発表当時は無視された技術だったそ

うです。当院では1995年に腹腔鏡下胆嚢摘出手術を行った記録が残っています。2016年に、日本内視鏡外科学会が同学会に所属する医師の勤務する医療機関に対して行ったアンケート調査によると、腹部外科領域と婦人科領域の腹腔鏡手術件数は、2015年の1年間で17万件を超えています。1995年の同手術件数が、3万件を下回る程度だったことを考えると、腹腔鏡手術が全国の医療機関で普及していることがわかります。

腹腔鏡手術が導入された当初は、従来の開腹手術に比べ時間が数倍にも及ぶ大変な手術でした。しかし、手術器具の開発、ハイビジョンや4K、3D画像など鮮明な撮影画像の導入などが、長時間手術という腹腔鏡手術のデメリットを帳消しにしました。腹腔鏡手術の発展は、医療工学の発展とイコールといっても過言ではありません

ん。ロボットを利用した腹腔鏡手術も実臨床に応用され、泌尿器科領域手術で2012年に保険収載となっています。

腹腔鏡手術のメリットは、手術部位を拡大視することで詳細な解剖がわかる、執刀医だけでなく助手の医師や看護師が共通の画像を見ながら手術を行える、自分が執刀した手術動画を見直したり、高名な外科医師が行う腹腔鏡手術の動画を見て手術技術を学べるなどがあります。また、従来の開腹手術に比べ手術創が小さいため、術後の疼痛や腸閉塞などの偶発症が少ないことは患者さんへの恩恵につながります。当院では現在、虫垂炎や鼠径ヘルニア、胆嚢結石などの良性疾患だけでなく、早期の胃癌、大腸癌などの悪性腫瘍手術にも腹腔鏡手術を行っています。

## 麻酔科部長あいさつ



麻酔科部長 齋藤 祐司

### 術後の経過も良く無事に退院できるように

2016年10月に、呉羽総合病院に麻酔科を創設致しました齋藤祐司です。大学を卒業してから約30年になりますが、東京都、茨城県、福島県、埼玉県、千葉県で麻酔科診療に携わってきました。

病气やけがで苦しんでいる患者さんにとっては、病院とはなるだけ関わりたくないものだと思います。しかし私にとっては、不謹慎かもしれませんが、医療は非常に“楽しいもの”です。特に患者さ

んの手術の際の麻酔を行い、その後の経過も良く、患者さんが無事に退院できるようにすることは、至上の喜びです。

特に手術のために入院している患者さんは、「無事に手術が終わり、麻酔から覚めて、また家に帰れるだろうか?」「入院する前と同じように家でお茶を飲んだり寛いだりできるだろうか?」と考えます。私は、患者さんに「思い切って手術したけれど、無事に帰宅できて、今まで通りの生活ができるものだ」と思っていただけのような心がけています。具体的には、細かい点まで気を配り、患者さんの状態を十分に把握することが重要だと思います。

話は前後しますが、私は多くの地域で麻酔科医としての業務に携わってきました。通常の外科・整形外科の手術の麻酔に加え、心臓血管外科手術、超音波で心臓を観察する方法、小児麻酔、産科麻酔、超音波を用いて局所麻酔薬を患者さんに注入して、手術の最中や手術の後の痛みを取る方法などを多数行ってきました。また、無痛分娩やペインクリニック診療も経験してきました。研究も精力的に行い、多数の論文を英語で執筆し、学会賞も受賞しました。

話は変わりますが、現在、これといった趣味もありません。かつては書道、水彩画、短歌、音楽などが大好きでした。特に書道、水彩画、音楽では表彰されたこともありましたし、後輩の好意で、私の短歌作品集も作成していただいたことがありました。しかし、現在ではどれも非常に下手になりました。

呉羽総合病院には、高萩市から、海沿いの国道6号線を通って通勤しています。毎日眺める海は実に「感性豊か」で、表情があります。本日の海は、花曇りの空の下、ご機嫌斜めでした。そのような海と同様に、患者さんの病気にも表情があるのでしよう。その表情を、麻酔科医はしっかりと捉えなくてはなりません。

最後に、医療には思いのほか「県民性」があります。手術の際の麻酔を行う上では、この県民性が微妙に診療に影響します。いわき地区の県民性は、麻酔科医である私にとっては“協力的でコミュニケーションも良好な”感じであると思います。末永く宜しくお願い申し上げます。

## 患者さんの声

### ～私のがん体験記 in メディカルサロン・すまいる～

性別 女性

年齢 74歳

(診断を受けた年齢 73歳)

疾患名 直腸がん

(呉羽総合病院・外科にて直腸がん根治切除術、人工肛門造設術、化学療法を行う)



＊メディカルサロン・すまいるに参加し、看護師と会話を楽しむご本人



＊メディカルサロン・すまいるで行われた緑川院長の勉強会の様子

#### 私の病気

2015年の11月ごろに便に血が交じり思い悩んでおり、翌年の1月に内科の先生に相談したところ直ぐに大腸内視鏡検査を行っていただき、発見することができました。直腸がんであることを告げられましたが「がんになってしまったのはしかたがない」と気丈に振る舞う自分がいました。

#### 病院のスタッフに支えられ

2016年2月、手術のため内科医から外科の緑川院長に主治医が変更になりました。初めは手術に対し不安がありましたが、緑川先生が分かり易く説明をしてくれたので少しずつ不安が薄れて行きました。手術も滞りなく終え、術後も看護師さんが度々声をかけてくれストーマの使い方も親切に教えてくれました。お陰様で退院後は自立した生活を送っています。

#### ＊メディカルサロン・すまいる＊の存在

退院が近づき、外来化学療法にも通うこととなり少し不安に思っていたとき、医療ソーシャルワーカーさんが、がん患者が集うカフェ＊メディカルサロン・すまいる＊に誘ってくれました。毎週開催しており、院長先生、看護師さん、管理栄養士さん、医療ソーシャルワーカーさんが気さくに應對してくれるので不安が解消できました。地元ならではの集まりで、今では毎週＊メディカルサロン・すまいる＊に通うことが楽しみになっています。

## 第92回常磐医学会 部門賞受賞



検査科 高林 千代子

2月4日に第92回常磐医学会に参加させていただきました。今回、内視鏡所見とピロリ菌の関連をテーマに発表をし、外来での検査やABC健診の結果も一緒に考察をしました。ピロリ菌は検査から除菌されるまで、長期にわたるので、その間に患者様が忘れてたり、放置したりしないようにと検査科の啓蒙活動もご紹介させていただきました。他院の先生方や医療技術者方の発表もあり、特に禁煙外来や、在宅介護のテーマ等は大変勉強になりました。

ありがたい事ですが部門賞を頂き感謝しております。指導していただいた消化器内科の齊藤先生、検査科の皆様、会場運営担当の総務課・看護科の皆様と一緒に頂いた賞だと思います。これからも微力ながら地域の医療に貢献していきたいと思っております。

## 新任医師紹介



整形外科 篠塚 洋祐

4月より前任の高林先生に代わり、整形外科に着任致しました篠塚洋祐と申します。

出身は埼玉県春日部で、その後は東京のごみごみとしたところで生活していたため、海も山もあり自然が豊かないわきにすでに魅了されています。

周囲のスタッフや患者様もアットホームな雰囲気であり、大変楽しく仕事をさせていただいております。また、症例も多く充実しており、日々勉強の毎日です。

限られた期間になるかもしれませんが、精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。



## 血管外科専門外来 7月より開設・予約開始しました



現：東京慈恵会医科大学  
外科学講座 血管外科  
特任教授 石田 厚

### 郷里いわきで診療開始！

皆さん、こんにちは。

現在、私は東京都港区西新橋にありま  
す東京慈恵会医科大学外科学講座血管外科  
で診療をしております。「血管外科」と診  
療科名は、馴染みのないものかと思いま  
すので、簡単にその診療内容、そして、今後  
の呉羽総合病院での診療予定をお知らせし  
たいと思います。

「血管外科」という名前が、度々マスコ

ミで取り上げられるようになり、日本全国  
に広まりましたのは、2006年、東京慈恵  
会医科大学外科学講座血管外科に大木隆生  
教授が米国の臨床現場から帰国・赴任され、  
ステントグラフトによる大動脈瘤の治療を  
はじめ、各種血管病の外科治療を開始され  
てからではないかと思えます。私は、外科  
医になり一般外科・心臓血管外科での修練・  
診療をし、早30年以上が経ちましたが、  
2008年4月より同施設に異動し、日本の  
最新の血管外科治療を身につけ、診療して  
参りました。

日本の多くの大学病院・大病院では心臓  
血管外科に含まれることの多い「血管外科」  
と言う名前を聞き慣れない方からは、血管  
内科とも言われることもありますが、診療  
内容上は間違っておりません。「血管外科」  
の診療対象臓器は、心臓・脳を除く身体全  
体の動脈と静脈そしてリンパ管で、それ  
に関連する病気を治療しております。治療  
法は、メスを使う外科手術、主にカテーテル  
による血管内治療、そして、薬による内科  
治療・理学療法です。内科治療・理学療法  
も含まれますのは、一般的には血管を診療  
する「内科」が無いからです。従って、血  
管内科というのは間違っていないことにな  
ります。

長年、東京近郊の大病院・大学病院で  
の血管外科診療に携わってまいりま  
したが、郷里であるいわきで大学病院に劣ら  
ない血管外科専門外来・診療を展開すべく準  
備を進めております。テレビで見た健康番  
組に出ていた症状に似ているなどと思った動  
脈瘤をはじめとした血管のあらゆる病気の  
相談、下肢静脈瘤、手や足の冷え・腫れと  
いったよくみられる症状につき遠慮無くご  
相談下さい。そして、かかりつけの先生から  
の気軽なお問い合わせ・患者さんのご紹  
介をお待ち致します。内科治療・理学療法、  
下肢静脈瘤はじめ簡単な血管の外科治療は  
全て当院で対応致します。また、命にかか  
わる大きな手術を要する病気は適切な判断  
で、治療可能な大病院・大学病院など安心  
してお任せ出来る私の面識のある血管外科  
専門医をご紹介します。

2017年7月から毎週水曜日の午後と木  
曜日の午前・午後に、福島県いわき市・浜  
通り地区では、おそらく初の「血管外科」  
外来を開設準備中です。お一人当たり診察  
時間がかかる専門外来ですので、診察ご希  
望の方は地域連携支援室にて予約をお願い  
します。勿論、急な症状にも対応致します。  
呉羽総合病院で身近な「血管外科」専門診  
療を行って行きたいと思えます。

## 勉強会のお知らせ

### メディカルサロン ミニ勉強会

日時：平成29年5月23日（火）14:00~16:00  
場所：呉羽総合病院 健康管理センター人間ドック控室  
緑川 靖彦 院長  
※通常のメディカルサロンは毎週火曜日に  
開催しております。



緩和ケア勉強会の様子

### 緩和ケア勉強会

日時：平成29年6月28日（水）17:30~18:00  
場所：呉羽総合病院 第一会議室  
（旧館の3階エレベーターを降りて左です）  
※当院外科緑川院長による上記勉強会を  
毎週第4水曜日に開催しています。

お問い合わせ 地域連携支援室  
TEL: 0246-62-3178

#### 地域連携支援室

- TEL. 0246-63-2181 【代表】内線168
- TEL. 0246-62-3178 【直通】
- FAX. 0246-62-2035
- E-mail t-takagi@kureha-hosp.com
- <http://www.kureha-hosp.com/>

■発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院  
〒974-8232 いわき市錦町落合1-1  
TEL. 0246-63-2181  
FAX. 0246-63-0552  
URL <http://www.kureha-hosp.com/>  
発行人 田中 稔  
編集 地域連携支援室